

プレジデント・ミッション
2009 年度 業務総括

業務全般

- 「JFA メンバーシップ基本還元金」および「プレジデント・ミッション支援制度」の 2011 年度以降の運用に関して、JFA が行っている事業の中で、都道府県協会が管理できるものは可能な限り運営の裁量権を都道府県協会へ移譲することを今後推進するため、地域性や独自性を発揮した取り組みが行えるような計画を立案した。
- 新たに設立した協会を含め 48 の都道府県協会支部協会が設置されており、105 の地区協会、455 の市区郡町村協会が都道府県協会と正式関係を構築するなど組織整備が進んでいる。
- サッカーファミリー500万人に向け、都道府県別の目標数を提示した。また、都道府県協会と協力し登録せずにサッカーを楽しむプレーヤーの実態調査を行い、約 21 万人存在することが把握できた。
- 支援制度対象事業の活動視察・ヒアリングを通じて、事業継続・拡大のための受益者負担を含む自主財源確保の重要性を訴えた結果、2010 年度の企画内容に盛り込まれるなど、意識の変化がみられた。
- 全国から集まるジョイントミーティングに加え、キッズプログラムに関する地域単位の自主的なジョイントミーティングを実施した。より多くの担当者が出席でき、活発に意見・情報を交換するなど、新しいコミュニケーションの場を創出することができた。
- 「ポット苗方式芝生化モデル事業」では、前年度の 3 倍以上の面積となる 157,000 m²(サッカー場 22 個分相当)の芝生化を実施するとともに、全国に苗づくりの拠点を 10 ヶ所設けることができた。
- 小学生年代の、生活圏内でのリーグ実施に対する支援制度を立ち上げ、推進した結果、31 の都道府県で活用され、2010 年度には 41 の都道府県で活用が予定されるなど、リーグ文化の醸成が進みつつある。
- 指導者不足から活動が制限されてしまう中学生年代や女子の活動を支援するために、行政や学校と連携して外部指導者を派遣する取り組みを推進した。成功事例を JFA 公式ホームページで紹介するとともに、問い合わせ窓口を設置し、個々の案件に対応した。
- JFA スポーツマネジャーズカレッジ(SMC)サテライト講座は新たな 5 県を含む 10 都府県で実施することができた。

M 1:「JFA メンバーシップ制度」の推進

- サッカーファミリーカテゴリーについて検討した結果、コアファミリーとなる選手数(非登録者含む)の把握を優先事項と位置づけ、選手数把握に関して他団体との連携や調査会社の利用を検討した。
- 都道府県協会のタスクフォース担当者と連携し、各都道府県の地区／市区郡町村内のキッズや JFA 登録せずに不定期にサッカーを楽しむプレーヤーに関する調査を実施。結果、29 都道府県において約 21 万人が存在することが判明した。

M 2:「JFA グリーンプロジェクト」の推進

- 「ポット苗方式芝生化モデル事業」を推進し、全国 50 ヶ所を対象に、157,000 m²(サッカー場 22 個分相当)の芝生化を実施した。また、各地の都道府県サッカー協会や J クラブ、まちクラブ等の協力を得ることで、全国 10 ヶ所の苗づくり拠点で計 66 万株の芝生の苗を生産することができた。
- 2009 年度の都道府県フットボールセンター整備事業として、宮城県、奈良県、山口県の計3ヶ所に新たなフットボールセンターの整備のための助成を行った。また、2010 年度の都道府県フットボールセンター整備事業として、岩手県、秋田県、長野県、和歌山県、大分県の計5ヶ所に助成金の交付決定を行った。
- 芝生化をより一層推進するための DVD を制作した。

M 3:「JFA キッズプログラム」の推進

- 9 地域にてジョイントミーティングを開催することにより、キッズ担当者が多数参加することができた。各地域における担当者同士のコミュニケーションや情報共有が可能となり、また現状理解や課題等が明確になるなど、有意義なものとなった。
- 6 月兵庫にて開催したジョイントミーティングにおいて、キッズリーダーインストラクターの研修を行い、指導者の質的向上を図った。
- 各都道府県における巡回指導の回数や参加人数等の調査を行った。キッズ年代においてサッカーを経験した子供たちの数等を把握できたことにより、巡回指導の重要性を再認識した。

M 4:中学生年代の環境充実

- 2009 年度の支援制度対象 FA 数が、前年度の 28FA に対し 30FA に増加した。
- 「他年代との連携」について積極的に取り組んでいる先進好事例 2 件を JFA news にて紹介し、全国での同様の取り組みを推進した。
- C 級指導者講座を開設している地域の大学・専門学校をジョイントミーティングで紹介し、連携を促すことで、指導者不足対応・外部指導者登用に対する全国での取り組みを推進した。
- 2010 年度の支援制度の対象 FA について、ジョイントミーティングのオブザーバー出席 FA を含む新規の 3FA を加えた 32FA を選定した。

M 5:エリート養成システムの確立

- 6 月の兵庫でのジョイントミーティングでは、指導者のあり方に関する情報展開を行い、1 月の富山でのジョイントミーティングでは、キッズエリートの指導ガイドラインの概要展開による、育成・強化における一貫性指導の指針を提示した。
- 各都道府県の実状に応じた生活圏内におけるキッズエリート活動が定期的に行われる様、また活動基盤がより充実する様、活動視察やヒアリングを行い、情報収集と情報発信を行った。
- 2010 年度支援制度の募集及びヒアリングを通じて、活動基盤(組織)作り・受益者負担/自主財源確保・事業継続の重要性を訴え、協力を促進した。
- 未着手の都道府県協会に対してアプローチし、前年度より 6 多い 42 都道府県協会に対して支援制度を行った。

M 6:女子サッカーの活動推進

- 1 地域/42 都道府県協会に 85 件の支援制度を行った。
- 外部指導者派遣のテストケースとして、東京都江東区・文京区においては教育委員会・中学校・大学と、千葉県ではなでしこリーグのクラブと連携して、中学校を拠点とする活動に対して指導者派遣を継続的に実施した。
- ジョイントミーティングにおいて、フットサルとの連携をディスカッションテーマとして議論し、また「M7,フットサルの普及推進」のジョイントミーティングでも女子を取り上げ、相互の担当者に連携を促した。
- 「女子チーム活動サポート窓口」を設置し、個々の案件への対応や情報収集を行った。また、JFA ホームページ上で成功事例を発信することにより、チーム創出にむけた活動を促進した。

M 7:フットサルの普及推進

- 4 地域協会／41 都道府県協会 87 企画の支援制度を行った。
- 「M6.女子サッカーの活動推進」のジョイントミーティングにて、フットサルとの連携を促した。
- 民間施設の利用について、都道府県協会の取り組みを行う際の費用負担を安価にってもらう代わりに、施設の告知に協力するなど、双方のメリットを模索した取組が行われた。

M 8:リーグ戦の推進と競技会の整備・充実

- 高校生年代は 40 都道府県協会、中学生年代については 6 地域協会／40 都道府県協会にて「地域／都道府県リーグ」が支援制度を活用して実施された。また他部署・ユースダイレクター等と連携を図り、2010 年度には全 9 地域で中学生年代地域リーグが実施されることとなった。
- リーグ戦を推進し各年代でのプレー機会を確保してきた結果、登録数が高校生年代では 1,512 人増加、中学生年代では 1,450 人増加した。
- 「小学生年代における日常の生活圏内でのリーグ戦」を新たに支援制度として立ち上げ、31 の都道府県で 5,000 チーム以上が参加し、30,000 試合以上が行われた。また本支援制度を活用し、2010 年度には 41 都道府県でリーグ戦が実施されることとなり、小学生年代のリーグ環境が整備されつつある。

M 9:地域／都道府県協会の活動推進

- 前年に引き続き、JFA 各部長をリーダーに同日で複数の都道府県協会を訪問、効率良く会議を実施することができた。理事長やチーム指導者をはじめとする地区・市区郡町村協会の関係者も多く出席、「生活圏内における小学生年代のリーグ」や「審判の育成と強化」といった主要テーマからグラスルーツ活動に関する貴重な意見交換の場とすることができた。
- スポーツ振興助成をはじめ各種補助金制度を積極的に活用、事業規模拡大や新規事業を実施する等、地域性や独自性を発揮し、グラスルーツ活動の環境充実に多くの都道府県協会が取り組んだ。
- 支援制度(タスクフォース)を通じ、訪問会議や事業委託等を多くの都道府県協会が実施し、積極的な関係構築や交流機会が増え続けている。JFA-都道府県協会-地区／市区郡町村協会との連携が生まれ、新たな人材の登用や発掘も行われた。
- 5 地域協会／46 都道府県協会が支援制度の対象 FA となり、リーグ戦の導入やフェスティバルの開催など、シニア年代がプレーできる環境や機会が増加した。

M10:中長期展望に立った方針策定と提言

- JFA/Jリーグ将来構想委員会の幹事として、日本のサッカーリーグの全体的な在り方について取りまとめるとともに、特に社会人のリーグについては 1 種大会部会/JFL のメンバーと協働して将来像についての検討を開始した。

M11:スポーツマネジメントの強化

- JFA スポーツマネジャーカレッジ(SMC)本講座を実施し、27 名が修了した。
- SMC サテライト講座を、埼玉／東京／神奈川／静岡／愛知／大阪／兵庫／島根／山口／沖縄の計 10 ヶ所で実施し、計 188 名の方々に受講してもらった。
- SMC 入門(仮称)の運用開始に向けたスキームを検討し、指定副読本の制作に着手した。
- SMC リフレッシュ講座を堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター(NTC)で実施した。

以上